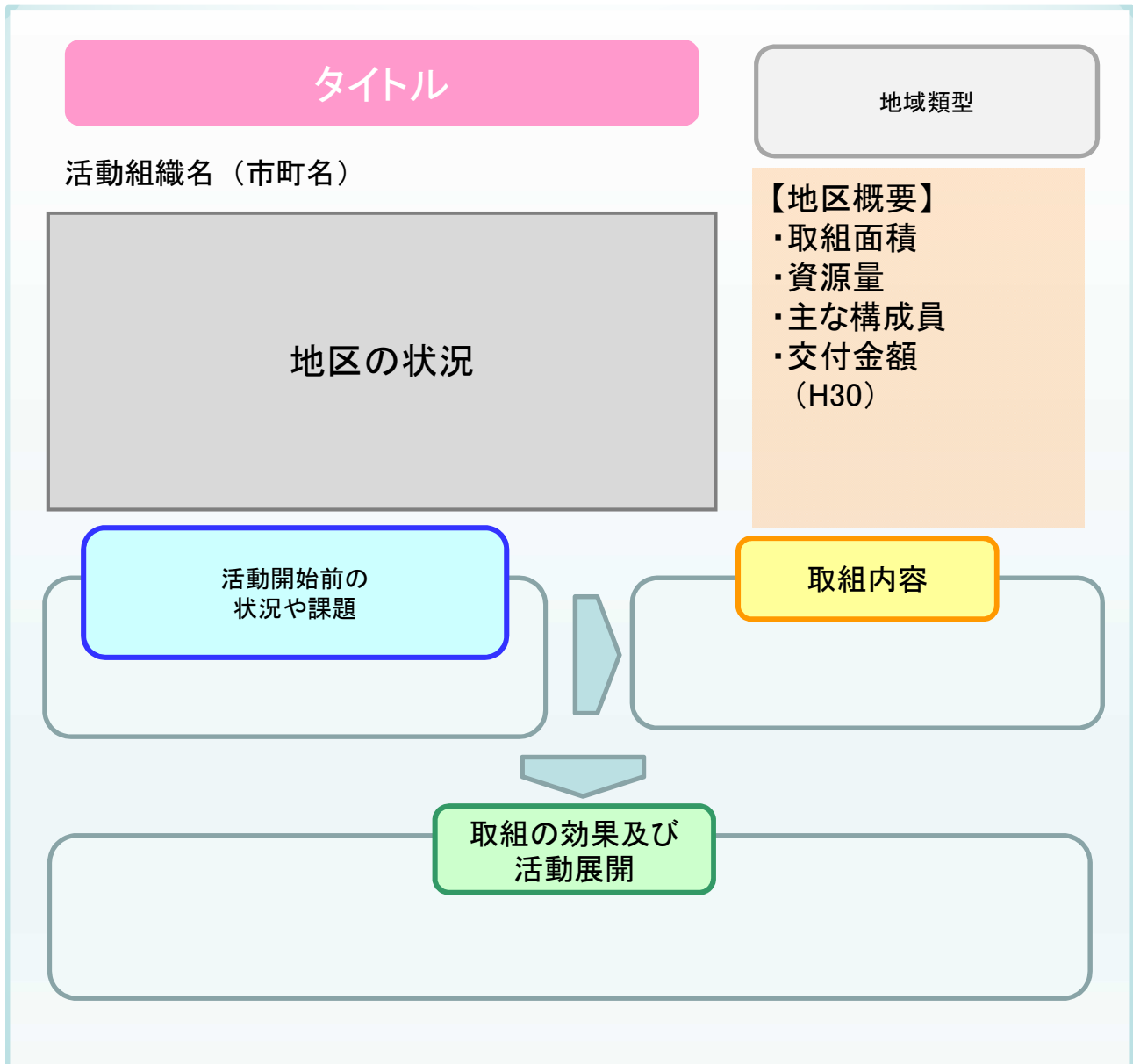


### 3 他の活動組織はどのように 取り組んできたのだろうか？ ～組織別事例集～

・高度な生態系保全の取組(SK農村環境保全会:宇都宮市)	… 54
・生態系保全活動を契機とした地域振興(逆面エコ・アグリノ里:宇都宮市)	… 55
・福祉法人と連携した地域の環境保全活動(申内環境保全会:宇都宮市)	… 56
・多様な主体との連携による共同活動の実施(姿川環境保全会:宇都宮市)	… 57
・活動組織と土地改良区の連携(チーム清南夢畑:宇都宮市)	… 58
・暮らしたいと思える地域づくり(板荷畑いつくし美会:鹿沼市)	… 59
・都市と農村の交流(下沢引田農村環境保全の会:鹿沼市)	… 60
・女性の活躍(下板橋の水と緑を守る会:日光市)	… 61
・農地基盤整備事業への進展及び集落営農の設立(小泉環境保全会:益子町)	… 62
・集落営農(里西環境保全会:益子町)	… 63
・コスモス祭りによる地域活性化(生田目環境保全会:益子町)	… 64
・直営施工による間伐材を活用した土水路の更新(ふるさと古江21:栃木市)	… 65
・活動組織と土地改良区の連携(思川西部農村環境保全会:小山市)	… 66
・環境に配慮した多様な取組(みたとうぶ保全会:小山市)	… 67
・担い手への農地集積の推進(ふる里しばみなみ:下野市)	… 68
・遊休農地の解消(夢はにしの里協議会:壬生町)	… 69
・学校との連携による活動(水の郷泉を守る会:矢板市)	… 70
・かつての生態系を取り戻すための活動(蒲須坂農根の会:さくら市)	… 71
・遊休農地の解消(寒井南部環境保全組合:大田原市)	… 72
・遊休農地を活用したソバによる地域活性化(寒井本郷環境保全組合:大田原市)	… 73
・様々なイベントによる地域内の交流(ミヤコタナゴの里環境保全会:大田原市)	… 74
・地域コミュニティ再生の推進(三区町環境保全隊:那須塩原市)	… 75
・ザゼンソウとカボチャ祭り(稲沢農地水環境保全組合:那須町)	… 76
・農用地等を利用した景観形成活動(たぬきの郷を守り隊:那須町)	… 77
・担い手への農地集積の推進(下牧農地環境保全会:佐野市)	… 78

# 組織別事例集の構成

地域の特性を活かした特色ある発展を実現した活動組織を取り上げ、どのような取組を行ってきたのかを整理することにより、“同じような悩みを抱えている活動組織”の取組を参考として提供するものです。



SK農村環境保全会（宇都宮市）

平地農業地域

- 宇都宮市北東部に位置し、ほ場整備事業で整備された農地では、米、麦、にら、いちごなどがつくられている。
- 「とちぎの田園風景百選」にも選ばれ、生態系に配慮した取組が活発に行われている。

【地区概要】

- ・取組面積 149ha(田145ha、畑4ha)
- ・資源量 水路39.2km、農道20.9km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、育成会、土地改良区、他
- ・交付金 約 700万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 平成6年度から平成22年度まで、ほ場整備事業が実施され、区画整理、農道、水路が整備された。
- 労力の軽減の一方、水路がコンクリート化され、生きものが急激に減少。
- このような中、平成19年度から、多面的機能支払の活動に取り組む。
- また、地域の農家の一部では、環境に配慮した米作りも始まった。



田園風景百選認定地



総会の様子

取組内容

農地維持活動(機械を併用)



草刈り  
(大型機械ブームモア)



水路清掃

地域資源向上活動(生態系保全に重点)

環境アドバイザーの助言のもと、保全活動に取り組む



生きもの調査



生きものに優しい施設  
(U字溝で魚の隠れ家)



冬水田んぼ  
(白鳥飛来)



地域の生きもの等の写真を整理し「ふるさとの自然」発行

取組の効果及び活動展開

- 広範囲の農地、水路をカバーするため、草刈り作業は、法面等危険なところは、大型機械を活用、それ以外は農業者・非農業者が連携して取り組むことで、農地維持活動が継続されている。
- 生態系保全活動から環境支払への発展。
- これまでの地域の活動を通して、地域の自然環境や活動の様子をまとめた小冊子「ふるさとの自然/下ヶ橋、河原地区(地域の生きものや伝統・文化を写真に収録)」が好評。自治会、学校等に反響があった。



環境支払の取組に視察が殺到

さかづら

## 逆面エコ・アグリノ里（宇都宮市）

都市的地域

- 本地域は、市の中心市街地から約10kmに位置する農村地帯。地域住民の混住化・高齢化、周辺地域の開発が進行。
- 地域内に設置されたフクロウの巣箱で、産卵が確認されたことを契機に、フクロウを保全する機運が向上。平成19年度に組織を設立し、交付金を活用して、生態系保全活動を開始。
- 保全活動を契機として、農産物のブランド化に繋がったほか、当地域を舞台として、生態系に係る学術研究も活発化。

## 【地区概要】

- ・取組面積 111ha（田 111ha）
- ・資源量 水路23.4km  
パイプライン3.2km  
農道25.2km
- ・主な構成員  
農業者、自治会、子ども会  
学校、営農組合、土地改良区  
JA 他
- ・交付金 約530万円（H30）

## 活動開始前の状況や課題

- 水田の広がる農村地帯であるが、市街に近いことから、混住化、農家人口の減少により、農地・農業用水等の適切な保全管理に支障が生じた。
- 平成17年に、自治会が属するNPO法人（自然活動団体）がフクロウの巣箱を設置したところ、翌年産卵が確認され、「逆面の自然を守る、地域をあげてフクロウを守りたい」という機運が向上。
- このため、平成19年から交付金を活用した、地域資源の保全活動を開始。



巣箱設置



水路の蓋掛け(カエル蓋)

## 取組内容

- 逆面地区にかつて多く生息していた旧河内町のシンボル「サギソウ」を逆面地区のビオトープで再生する活動に取り組んでいる。
- タガメやホトケドジョウ等絶滅危惧種や希少種の調査・監視や保護活動等を実施。
- これらの活動により、フクロウのエサ場を守るための減農薬・減化学肥料に取り組む農業者も出てきている。



ビオトープ(サギ草植付け)

## 取組の効果及び活動展開

- 地域内でフクロウが継続的に営巣し、里山の豊かな環境が保全。
- 地域ブランド農産物「育む里のフクロウ米」として付加価値を高めて販売。

減農薬等への取組面積 平成27年度 64 ha  
通常米の販売価格(1,350円/5kg)  
→フクロウ米の販売価格(2,500円/5kg)

- 地元大学と連携し、フクロウなどの生態系に関する学術研究が活発化。



フクロウの赤ちゃん



育む里のフクロウ米

ざるうち  
申内環境保全会（宇都宮市）

平地農業地域

- 宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、農業醸成の変化が著しく、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進行。
- 女性役員を中心に会の運営を行っており、女性役員の発案で福祉施設法人と連携して農用地を活用した植栽活動を実施している。

- 【地区概要】
- ・取組面積 60ha(田60ha)
  - ・資源量  
水路7.5km、農道6.4km
  - ・主な構成員  
農業者、非農業者  
自治会、婦人会、小学校
  - ・交付金 約280万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 引き継ぐ役員がいなかった等により一旦活動を休止したが、「女性なら別の取組ができるのでは」との声も有り、地域の女性を中心に活動を再開。
- 障害者は地域とのつながりが薄く、地域の活動にも参加しづらく、孤立しがちな状況であった。
- 福祉法人においては大口の取引先が少なく安定的な収益の確保に苦労していた。



農用地を利用した植栽活動

取組内容

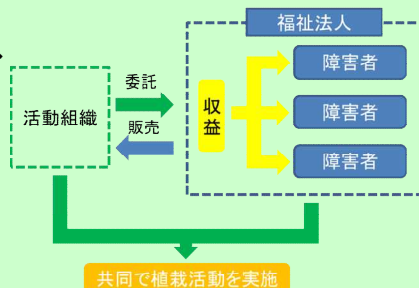
- 女性役員の発案で農業補助で関係のあった福祉法人と連携して植栽活動を行うこととした。
- 環境保全会が地域の植栽用の苗づくりを福祉法人に委託。
- 福祉法人と協力して地域の農用地を活用した植栽活動を実施。



苗づくり

取組の効果及び活動展開

- 地域の共同活動に参加することにより地域とつながりができたとともに苗作り等の作業へのモチベーションがあがった。
- 共に活動したことで障害者に対する考えに変化が見られた。また就業条件が厳しいことを知り、継続した活動が必要であるとの意識が芽生えた。
- 福祉法人も大口の取引先ができ、収益の安定化につながった。
- 健康上の不安を考え、今後の活動内容について、検討していきたい。



植栽活動に参加した皆さん

すがたがわ

姿川環境保全会（宇都宮市）

平地農業地域

○平成19年度に水利組合を中心として発足。姿川土地改良区部分と上欠沼周辺が活動エリアとなる。「美しき里 故郷 すがたがわ」をスローガンに、地域の自然環境を守っていくために、生きものにまなざしを向けた活動に力を入れて取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 57ha  
(田56ha、畑1ha)
- ・資源量 水路10.9km、農道7.3km  
ため池1ヶ所
- ・主な構成員 農業者、非農業者  
営農組合、他
- ・交付金 約270万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- ・当地区は、宇都宮市の南西部に位置し、地区を南北に流れる姿川に沿った水田地帯。
- ・ため池にブルーギルやオオクチバス、コカナダモなどの外来種が増殖し、在来種の生息環境が脅かされてきている状況にあった。

取組内容

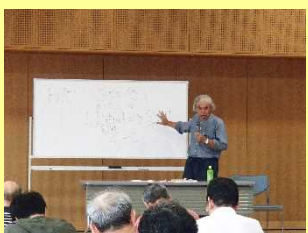
- 約300名が参加して生きもの調査を実施。小学校の農業体験、幼稚園でパネル展示等、農業・環境の理解促進にも取り組む。
- 宇都宮大学や白楊高校、JAなど、多様な主体と連携して生態系保全活動に取り組む。
- 農業面では「特別栽培米」、「環境保全型農業カバークropp」等に取り組む。
- 地域住民を集め、自然環境や農業の有識者による講演会を毎年実施。
- 農村ならではの体験を検討するなどの将来構想も有する。



ブルーギルの駆除  
(白楊高校や地元消防団と連携)



田植え体験  
(JAアグリスクール・とちぎ青少年センターと共催)



講演会(講師:宇根豊氏) フレールモアによる草刈り

取組の効果及び活動展開

- 生きもの調査や外来種の駆除を通して、地域のコミュニティが活性化され、地域の水田農業と自然環境について理解が図られた。
- 田んぼやため池の生きものの変化を実感することができた。
- 調査結果を基に、魚類や昆虫類、植物など分類を行い、「姿川田んぼまわりの生きもの図鑑」として取りまとめ、地域環境に対する住民の意識醸成や生態系保全に向けた取組において活用している。



生きもの図鑑

きよなんゆめばたけ  
**チーム清南夢畑（宇都宮市）**

平地農業地域

**【地区概要】**

- ・取組面積197ha  
 （田32ha、畑195ha）
- ・資源量 水路41.3km  
 農道248km
- ・主な構成員  
 農業者、非農業者、自治会  
 子ども会、土地改良区、他
- ・交付金 約660万円（H30）

- 当地区は、県営畑地帯総合整備事業清原南部地区の受益地で清原南部土地改良区区域と活動区域は重複している。
- 土地改良区はパイプラインや自動給水栓、制水弁等の維持管理を担い、活動組織は自動給水栓の保護柵の補修や、遊休農地を有効活用した植栽、道路路肩の草刈りなどに取り組んでいる。
- 農村環境保全活動では、畑作地帯に生息する生きもの調査や農道路肩への植栽と管理等を行っている。

**活動開始前の状況や課題**

- 農業者の高齢化、担い手不足により農地やパイプライン施設の維持管理に苦慮。
- 通学路や通勤路にもなっている農道に畑地の耕作土が流出・堆積し緊急の課題。



【パイプライン（給水栓）】



【農道への土砂流出防止】

**取組内容**



【活動の紹介（看板設置）】



【道路路肩の草刈り】



【生きもの調査】



【菜の花植栽】

**取組の効果及び活動展開**

- 土地改良区と活動組織との連携により、農地、農道及び農業用水利施設の迅速な情報の共有化が可能であり、補修等がスムーズに対応できている。
- 地域の営農環境・自然環境の保全や景観保全活動が、活動組織のやりがいと活動の充実、協調性、活動後のコミュニティ強化（情報交換）に繋がっている。



【パイプライン補修】



【遊休農地の保安全管理】



【生きもの調査】

いたがばた  
板荷畑いづくし美会（鹿沼市）

中間農業地域

○野生鳥獣害の増大、農業者の高齢化により、耕作放棄地の拡大や農業後継者問題など地域の将来に不安を感じ、交付金を活用し、課題解決に取り組むため、平成20年3月に「板荷畑いづくし美会」を設立。

【地区概要】

- ・取組面積 30ha（田24ha、畑6ha）
- ・資源量 水路5.8km、農道1.5km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、育成会 他
- ・交付金 約 160万円(H30)

活動開始前の状況や課題

見えてきた地域の現状(アンケート結果)

- 農業への関心
- ①主たる農業従事者:  
10年後には30%が農業をやめる?
- ②親子の意識差:  
親 継いでほしい・・・79%  
後継者(子) 否定的又は未定・・・60%
- ③後継者の不安:  
低収入23%、鳥獣被害20%、機械更新費用15%
- ・活動組織への期待
- ①活動の影響:地域のまとまり感向上 70%
- ②公園整備29%、獣害対策:24%、収穫祭16%、そば打ちイベント8%

【課題解決を優先】

○地域の高齢化が進む中、課題の解決に早期に動くことが必要。

【地域内の連携、相互交流】

○地域内の各組織が連携して取り組む。

【リーダーのサポート役】

- 次期自治会長予定者を中心に40代から50代の住民が核となる。
- 事務的な業務を40代から50代の住民が担う。

取組内容



獣害防護柵の設置



耕作放棄地予防 (景観作物)



生きもの調査



営農体制づくり(直売所)



交流事業(そば祭り)



会報の発行

取組の効果及び活動展開

- ・地域の課題に取り組む
- ・子どもも楽しめる活動
- ・地域づくりの意欲の高揚

- ・連帯感醸成 意識共有
- ・ふるさとへ愛着心、子育て世代を巻き込む
- ・夢の共有意欲向上

活動により地域が変化

地域の現状と課題の明確化

地域への愛着

若い世代の関心の高まり

暮らしたいと思える  
地域づくりへの意欲高揚

地域で運営する「コミュニティビジネス」

農業

農業の  
6次産業化

稲作

加工

野菜他

販売

目標：法人化  
(板荷畑を丸ごと会社に・・・)



しもさわひきだ  
下沢引田農村環境保全の会（鹿沼市）

平地農業地域

○下沢引田地区の豊かな地域資源を活かし、都市住民との多様な交流による中山間地域の活性化を目的に、下沢引田農村公園を拠点に、ふれあいみどりの村の構成員が中心となり、平成19年度に設立された。

## 【地区概要】

- ・取組面積 134ha  
(田116ha、畑17ha)
- ・資源量 水路41.6km、農道30.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者  
自治会、育成会、他
- ・交付金 約 610万円(H30)

## 活動開始前の状況や課題

○環境に配慮した圃場整備が平成15年に完了し、約50haの農地が整備されたことをきっかけに、地域住民の農村環境の保全に対する意識が高まり、農地水の活動開始前から生きもの調査が継続的に実施されている。

## 取組内容

○遊休農地の有効活用のため、景観作物として花の植栽やソバの栽培を行い、収穫したソバで交流会を実施。

○農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化として、地元小学生を対象にした田んぼの学校(手植えの田植え、稲の手狩り、かかし作り、足踏み脱穀、わら鉄砲作り、どんど焼きなど)を実施。

○鹿沼市の友好都市である東京都足立区住民に「田んぼオーナー」を募集し、田植えや稲刈りなどを通して交流。

○地域住民による直営施工により、水路補修や道路補修、農地の日陰除去などを実施。



生きもの観察会



田んぼの学校(脱穀)



田んぼオーナー田植え



水路整備(嵩上げ)

## 取組の効果及び活動展開

○活動を通して2つの自治会が融合し、情報交換の向上や世代間の交流が有効に図れてきているとともに、農家以外の人々の農村環境向上への意識が高まってきている。

○交付金を有効活用して農地周りの施設補修が進み、機能が向上している。

○今後も伝統的農法等による農業体験等を通じて、地域交流を図っていきたい。

しもいたばし  
下板橋の水と緑を守る会（日光市）

中間農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 63ha  
（田50ha、畑13ha）
- ・資源量 水路12.5km、農道7.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、育成会、他
- ・交付金 約 400万円（H30）

○専業農家と兼業農家を合わせた2割の農家と、8割の非農家が混在している農村集落。

○圃場整備が完了し農作業の省力化が図られたことから、集落営農組合が組織され、大規模農家への農地流動化も進んでいる。

活動開始前の状況や課題

○日光市の南西部に位置し、一級河川の板橋川に沿って水田が形成された中山間地帯。

○活動開始前は、農業用排水路や農地畦畔の草刈りなど専業農家への負担が増大しており、管理も十分に行われていない状況にあった。

○構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の加入が課題。

取組内容

○農家と非農家の主婦で組織するミセス会を中心として、農道脇の花壇等への草花の植栽活動を実施。

○地域の認定農業者と連携したソバの作付けにより、遊休農地化防止のための対策を図っている。



草刈り



水路泥上げ



生きもの調査



植栽活動

取組の効果及び活動展開

○農家と非農家との交流が生まれ、地産地消への取り組みの輪が広がりつつある。

○生きもの調査が、地域の田んぼ周りの生きものへの関心や、地域の環境を改めて見つめ直すきっかけづくりの場となっている。

○今後の展開の方向性として、担い手農業者の育成と、集落営農組合の拡大を図り、農地流動化の促進を進めていきたい。

こいずみ

小泉環境保全会（益子町）

中間農業地域

【地区概要】

- ・取組面積173ha  
(田76ha,畑97ha)
- ・資源量 水路 24.0km  
農道 7.3km  
ため池 10か所
- ・主な構成員  
農業者、非農業者  
自治会、女性会、子ども会  
土地改良区 他
- ・交付金 約520万円(H30)

- 当地区は、町の南部に位置し、稲作のほか、葉たばこや麦など土地利用型作物を中心とした経営の割合が多い。
- 地域資源の保全活動を地域で支えるため、平成24年度に多面的機能支払活動組織「小泉環境保全会」を設立。
- 環境保全会の設立を契機に集落営農の必要性について話し合いを進め、平成29年に「小泉・本沼集落営農組合」を設立。農地基盤整備事業の推進等と併せ、活動組織と担い手が協力し合いながら営農と農地の保全に取り組む。

活動開始前の状況や課題

- 平成24年に農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域全体で草刈りや植栽など、地区の環境維持活動を開始。
- 当地区は、畑作地帯であるが、圃場の区画が小さく不整形でかんがい施設もないことから、安定的、効率的な農業に支障をきたしていた。
- 活動組織の話し合いの中で生産性向上や農業用水の安定供給など圃場整備事業の機運が高まった。

取組内容

- 平成25年に圃場整備事業に係わる事業推進協議会を設立。
- 集落内の農地や機械、施設等を地域ぐるみで協力して活用する体制を検討。平成29年に「小泉・本沼集落営農組合」を設立。
- 現在、益子町の小泉地区、本沼地区で圃場整備を計画しており、平成30年度に事業着手。



【小泉・本沼集落営農組合設立】

取組の効果及び活動展開

- 集落内の農地を地域ぐるみで協力して活用する話し合いを進める中、現在、約20haのソバが栽培されるようになった。
- また、農地中間管理事業の活用により、担い手への農地集積率も高まっている。  
・集積面積31.3ha(集積率94.1%:うち農地中間管理機構73%)



ソバの作付け風景

- 農地基盤整備事業により、小泉地区の畑地27.0haと本沼地区の水田と畑地26.4haの圃場条件が改善され、作業効率の向上や収量安定が期待される。

さとにし  
里西環境保全会（益子町）

中間農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 168ha  
(田112ha、畑55ha)
- ・資源量 水路18.3km、農道14.0km  
ため池3ヶ所
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、営農組合  
自治会、女性会、育成会  
土地改良区 他
- ・交付金 約 580万円(H30)

- 当地域は、益子町七井地区の北西部に位置しており、稲作を中心に、ソバや花きの栽培が盛んな地域である。
- 平成24年に農地・水保管理支払交付金事業の取組を開始し地域全体で草刈りや植栽を行い、地区の環境保全活動を実施。
- 環境保全会の設立を契機に集落営農の必要性について話し合いを進め、平成26年に「里西集落営農組合」を設立。

活動開始前の状況や課題

- 専業農家の割合は少なく、農業従事者の高齢化や後継者不足が進み、畦畔の草刈りや水路の泥上げ等農業用施設の維持管理が難しくなっている。
- 規模が小さく個々で経営の効率化を図ることが難しい農家や、後継者不足から農業を継承すること自体が困難な農家もあった。



【整備前のビオトープ(耕作放棄地)】

取組内容

- 集落営農組合が設立されたことで、担い手同士が協力しながら営農活動及び環境保全活動に取り組んでいる。
- 遊休農地の有効活用として、ビオトープ整備に取り組み、里山に生息する生きものの生息地や、子どもたちが自然と触れ合う場を提供している。
- 地元の歴史と農業の結びつきに着目した情報を発信し、ため池など古くからの地域資源を守る活動が活発化している。



【整備されたビオトープ】



【ため池の整備】

取組の効果及び活動展開

- 活動が地域に認知されたことで非農家の参加率が上がり、ゴミ拾いなどの環境美化活動や植栽は、非農家の住民が中心となっている。
- 環境保全会の活動をきっかけに、地元で女性会や歴史愛好会が設立されるなど、地域住民のまとまりが一段と高まっている。
- 地域住民がずっと地元を向けてくれるような自然環境を維持し、地域外住民の協力も得ながら活動を継続していきたい。
- ビオトープの更なる整備など、子どもたちが自然の中で遊べる場所を提供していきたい。
- 女性会のメンバーの一部からは、直売所を設置したいとの声も上がり始めている。

なばため  
生田目環境保全会（益子町）

中間農業地域

○本地域は、益子町の南部に位置しており、稲作を中心として、大豆や麦などの栽培が盛んな地域となっている。平成19年度から事業を開始し、草刈りや泥上げには地域全体で取り組んでいる。毎年10月にはコスモス祭りを開催しており、数多くの来訪者を楽しませている。

【地区概要】

- ・取組面積 78ha  
(田69ha、畑8ha)
- ・資源量 水路19.1km、農道9.6km  
ため池5ヶ所
- ・主な構成員 農業者、非農業者  
営農組合、土地改良区  
自治会、育成会、他
- ・交付金 約 340万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 専業農家の割合は少なく、農業従事者の高齢化、後継者不足が進行。
- 田畑や畦畔の維持管理は個別に農家が行い、その他の農業施設の維持管理が難しくなっている。
- 水路や農道の草刈り、地区行事の参加も減少傾向にあり、農業や地域への関心が薄れ、地域の結びつきが弱くなってきている。
- 規模が小さく個々で経営の効率化を図ることが難しい農家や、後継者不足から農業を継承すること自体が困難な農家もあった。

取組内容

- 生きもの調査の一環として、地元の子どもたちとホタル観賞会を実施。
- 地域住民と協力してコスモス祭りを開催。祭りでは、農産物やうどんの販売のほか、今年度は初めての試みとして、コスモス畑のライトアップや夜祭りを実施。10月6日～10月21日までの期間に延べ20,961人が来場した。



ホタル観賞会



コスモス祭

取組の効果及び活動展開

- 植栽やゴミ拾い、草刈り等の活動が地区内に浸透し、非農業者の参加が活発になってきた。
- コスモス祭りの取組は休耕田の有効活用だけではなく、地域の観光資源となり、地域の活性化に役立っている。今後もイベントを通して益子の素晴らしさを積極的にPR(情報発信)し、多くのリピーターの獲得を目指している。
- 子どもたちを対象とした体験活動を積極的に行い、次世代を担う子どもたちを育てる取組を継続していく。

ふるさと古江21 (栃木市)

平地農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 41ha(田37ha、畑4ha)
- ・資源量 水路 11.0km、農道 4.0km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、小学校、JA女性会、自治会 他
- ・交付金 約190万円(H30)

- 地区内の水路は、造成後50年以上経過し、土水路法面の洗掘や崩れ、土砂の堆積による通水能力が低下し営農に支障を来していた。
- 間伐材を活用した土水路法面の土留めを、直営施工により実施。
- 共同活動として、土水路法面に草花を植栽し、法面の保護を兼ねた景観づくりにも取り組む。
- 地域資源(間伐材)を有効利用することで生きものの生息環境が確保されている。

地域の現状

- 昭和29年までに整備された水路、砂利道の老朽化が進行。水路は、法面の洗掘や崩れ、土砂の堆積により、営農に支障。
- 平成17年に農業施設の維持管理を目的として「用排水事業組合」を設立したが、水路の泥上げ等に多くの労力を要し、施設の維持管理に苦慮。



取組内容

- 地元森林組合より長さ3m程度の間伐材を購入し、土水路法面の木製土留を直営施工により実施。



土水路法面の土留



施工後土水路

- 水路法面に草花を植栽し、法面の保護を兼ねた景観づくりに取り組む。



ヒガンバナの植栽

取組の効果及び活動展開

- 通水能力の確保や維持管理の低減が図られただけでなく、間伐材の有効利用が図られたとともに、生きものの生息環境を確保することができた。また、子どもたちによる生きものの観察など、地域の憩いの場の提供につながった。



生きもの調査

おもいがわせいぶ

思川西部農村環境保全会（小山市）

平地農業地域

- ラムサール条約湿地登録された渡良瀬遊水地の近くに位置する農村地帯。農業者の高齢化により農地及び水路等の管理についての耕作者の負担が年々増加。
- 農地及び水路等の管理と非農業者の農業への理解を深めることを目的に、平成19年度から泥上げや草刈り、植栽、生きもの調査等の共同活動を実施。
- 平成26年度に26組織を改良区単位に統合して本保全会を発足し、併せて土地改良区へ事務を委託。

【地区概要】

- ・取組面積1,829ha  
(田1763ha、畑66ha)
- ・資源量 水路288.2km  
農道176.1km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、自治会  
育成会、PTA、土地改良区
- ・交付金 約8,000万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 高齢化により、農地及び水路管理の耕作者負担が年々増加。
- 昔はドジョウやフナ等が土水路や田んぼに生息していたが、生態系保全に対する意識が薄れたため、生息数が減少した。



【増水する  
農業用排水路】



【水路生きもの調査】

取組の効果及び活動展開

- 非農業者の生きもの調査への参加者も多くなり、地域内交流が促進されたとともに、農村環境保全への意識が向上した。
- 今後の活動として、①都市部との交流事業の取組、②生きものを増やす取組、③次世代の担い手の育成を図る取組を活動の重点項目として位置付け、実践活動を実施していく。

取組内容

- 総延長6kmに及ぶフラワーロード計画や田んぼアートといった多様な共同活動に取り組む。
- 防災・減災力の強化として、田んぼダムを設置に県内でいち早く取り組んでいる。
- コキアの植栽やカエル脱出ネットの設置など、話題性のある活動にも積極的に取り組んでいる。



【フラワーロード計画】



【ビオトープ整備】



【カエル脱出ネット】



【田んぼダム】



【田んぼアート】



【コキアの植栽】

都市的地域

みたとうぶ保全会（小山市）

- 「自然型水路」「水田魚道」「ビオトープ」などを設置し、生態系に配慮した環境づくりを実施。
- 設置した環境配慮施設を親水空間として生きもの調査などに取り組み、地域に憩いと学習の場を提供。
- 生きもの調査後にマップを作成するなど環境学習にも積極的に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積158ha  
(田148ha、畑10ha)
- ・資源量 水路 18.3km  
農道 30.0km
- ・主な構成員  
農業者・農協女性会・老人会・子ども育成会・NPO法人等
- ・交付金 約 740万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- コンクリート水路への改修が進み、生きもの減少が懸念されていた。
- 生態系に配慮した水路整備の具体的な工法や技術は十分ではなかった。
- 小山市美田東部土地改良区全エリア内の17活動組織が一つにまとまり、地域資源の保全管理体制を強化する必要があった。



【コンクリート水路への改修】

取組内容

- かつて農耕馬を水洗いするためにつくられた「馬洗い場」に大小の玉石を配置し、子どもが自然と触れ合う親水空間を整備。
- 非農家や子どもたちを招き、地域で連携した生きもの調査を実施。
- 未使用となった水路に水を通し、間伐材等を利用した魚だまりを設置。



【馬洗い場を活用した水路整備】

【魚道設置工事】



取組の効果及び活動展開

- 未使用だった水路を自然型水路に改修したことにより、生きものの生息が確認できるようになり、子どもが自然と触れ合う機会が増えた。
- ビオトープの設置により、生きものの生息環境が確保され、更に、周囲に花々を植栽することで、田園ならではの景観が形成され、地域の憩いの場となっている。
- 生きもの調査により、非農家や子どもたち、地元小学校教職員との交流が深まっている。



【ビオトープ】



【生きもの調査の様子】



ふる里しばみなみ（下野市）

中間農業地域

【地区概要】

- ・取組面積30ha（田25ha,畑5ha）
- ・資源量 水路8.6km、農道5.3km
- ・主な構成員 農業者、非農業者  
営農組合、自治会、子ども会  
土地改良区、学校・PTA
- ・交付金 約130万円（H30）

○当地域は、下野市の南部に位置した都市的地域に位置し、米麦を中心とした土地利用型農業の経営割合が多い。

○草刈りや水路の泥上げ等共同活動に、近年、20代～30代の参加者が増加しており、コミュニケーションが活発になり維持管理作業も活気が生まれている。

活動開始前の状況や課題

○施設の老朽化が進行し、耕作条件の改善として、区画拡大や素掘り水路からコンクリート水路への更新、暗渠排水対策が課題となっていた。

○担い手の減少に伴い、将来の耕作放棄地の増加が懸念される。

○農地の分散化や小区画の農地が点在し、効率的な機械化作業が阻害されている状況。



【農地の分散状況】  
（現状）

取組内容

○多面的機能活動組織の単位で担い手が中心となって話し合いを行い、農地中間管理機構を活用した農地集積・集約を実施。

○平成26年度からふる里しばみなみを中心とした、『柴地区基盤整備組合』を立ち上げた。

○農地耕作条件改善事業のうち、定額助成（直営施行）にて、区画拡大や暗渠排水工事及び素掘りの水路にU字溝を整備した。



【直営施工の様子】

取組の効果及び活動展開

○農地中間管理事業を活用した農地集積を積極的に進めた結果、地域集積協力金が交付された。

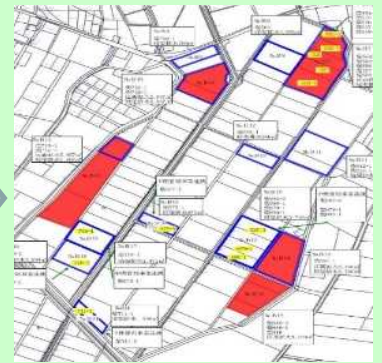
【担い手への農地集積面積】

H26年度 14ha → H27年度 15ha

○共同活動による耕作放棄地解消の取組が、農地の再生及び担い手への農地集積につながった。



農地集積前



農地集積後

※図は、「農地整備事業と農地中間管理事業との連携事例」（H29.2）経営技術課から

夢はにしの里協議会（壬生町）

平地農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 90ha  
(田85ha、畑5ha)
- ・資源量 水路33.6km  
農道17.1km
- ・主な構成員  
農業者、営農組合、JA  
土地改良区、学校、PTA 他
- ・交付金 約 460万円(H30)

- 当地区は、壬生町の北部に位置し、水稻及び野菜を主要産品としている。
- 圃場整備後20数年が経過し、農業施設の老朽化がみられるため、施設の点検・補修を中心に環境保全の向上に取り組んでいる。
- 地域の生態系保全については、生きものの生息状況の把握のための調査を実施するとともに水質にも着目し、簡易な水質モニタリング調査を実施してきた。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手の減少の影響により、遊休農地が長年放置され、雑草・雑木の繁茂や病害虫の発生、更には景観の悪化など影響がみられた。



遊休農地の水田復旧（北原地区）

取組内容

- 柳の木や雑草が繁茂した約85aの遊休農地について、バックホウによる伐採、伐根及びハンマーモアによる草刈りにより、地域ぐるみの取組で解消した。
- 活動区域内にある羽生田小学校の生徒に参加してもらい、田んぼ・水路の生きもの調査を実施。
- 用水路の機能診断の結果、コンクリートU字溝の破損部分の修繕や不動沈下箇所の嵩上げを直営施行により実施。



【生きもの調査】



【遊休農地再生後の水田】



用水路の嵩上げ（下坪地区）



【広報誌】

取組の効果及び活動展開

- 農地の遊休農地を再生することにより、新たに担い手の農地利用集積を促進することができた。
- コンクリートU字溝の嵩上げ等、直営施行を実施することで、自分たちの力で出来るという達成感が生まれ、維持管理にも意欲的に取り組めるようになった。

水の郷泉を守る会（矢板市）

中間農業地域

○小学校と連携し、生きもの調査や景観形成（マリーゴールドの植栽）を実施している。また、地元育成会と連携し、カワニナの放流やクレソンの植栽など、ホタルの生息しやすい環境を整備し、地域住民との交流として「ホタルの観察会」を開催している。

【地区概要】

- ・取組面積 31ha（田31ha）
- ・資源量 水路12.2km、農道4.8km
- ・主な構成員 農業者、自治会  
非農業者、育成会  
水利組合等
- ・交付金 約 140万円（H30）

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、矢板市の北部に位置し、稲作を中心とした農業が行われている。
- 圃場整備後40年以上が経過し、水路や農道等の農業用施設の劣化がみられるようになったことや、農業者の高齢化、後継者不足等により、農業者だけで保全管理を行うことが困難になってきた。
- 平成19年から組織を立ち上げ、地域住民らが協力し、施設の保全管理を行っている。



取組内容

- ホタルが生息できる環境になるよう地域住民が環境整備活動（清掃や草刈り）に努めている。また、地元育成会と協働し、カワニナの放流やクレソンの植栽を行っている。
- 地元学校と連携し、生きもの調査やグリーンボランティア活動（マリーゴールドの植栽等）を行っている。
- 農業者と非農業者が協力し、休耕田を活用した花の植栽による景観形成を行っている。



生きもの調査



クレソンの植栽

取組の効果及び活動展開

- 農業者と非農業者が協力し、景観形成（花の植栽）を行うことにより、地域の美しい景観が形成されている。また、植栽したコスモスの観賞会等を行うことで地域交流が盛んになり、地域活性化に寄与している。
- 農村環境の大切さを子どもたちに伝え、地元への愛着を深めるきっかけとなっている。



休耕地に植栽（播種）



コスモス鑑賞会

かますさか  
蒲須坂農根の会（さくら市）

平地農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 132ha  
(田130ha、畑2ha)
- ・資源量 水路224.0km、農道9.9km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、自治会、他
- ・交付金 約 730万円(H30)

- 「小ブナ釣りしかの川」「甞れ、田んぼ周りにかつての草花」をテーマに、押上小学校の協力を得て、放流や植栽を実施。
- 地域住民が一体となって、かつての生きもの、植物が田んぼ周りに賑わう環境を取り戻すことを目指し、より良い農村環境となるように努めている。

活動開始前の状況や課題

- 地域内に耕作放棄地が点在し、篠竹等が生い茂っていたため、治安上の課題があった。
- 圃場整備後、相当年数が経過し、整備された農用地、水路、農道も老朽化による破損劣化がみられる。
- 担い手の高齢化や兼業化により、後継者不足が懸念されている。

取組内容

- 月に5回ほど、共同で草刈りを実施。
- 蒲須坂地区の土水路(通称: オツケ堀)を生態系保全区域とし、魚道や隠れ場の設置の他、フナの放流やアヤマ・ザゼンソウの植栽など、生きものや植物の生息環境を整備。
- 10年来の遊休農地について、人の丈をこえるセイタカアワダチソウや頑丈に根を張る桑の木などを根気よく除去しつづけ、耕起、畦づくり、代掻き、施肥、水張りを経てサツマイモを作付け。
- 水路の陥没箇所への砕石充填や法面の土留め施工など、地域住民による直営施工で実施。



【共同での草刈り活動】



【水路魚道】



【アヤマ、ザゼンソウの植栽】



【サツマイモの作付け】

取組の効果及び活動展開

- 地元の子どもたちが、外来種に席捲されている田んぼ周りの現状を認識し、在来種中心の生態系保全に対する関心を高めた。
- 現在のすばらしい農村や自然を守るためには、地域住民みんなが協力していくことが不可欠。地域の共同活動のより一層の強化を目指していく。

さぶいなんぶ

寒井南部環境保全組合（大田原市）

中間農業地域

- 米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業が盛んな地域である。事業開始当初は、高齢化や農業後継者不足により、農地の維持管理に支障を来し、遊休農地が増加傾向にあった。
- 農地の維持管理面での労力負担増が懸案となり、思うように集積が進まなかった。
- このような中、遊休農用地を所有者から借り受け、遊休農地の解消に向けた活動を開始した。組合員各自の所有する農機具及び小型重機を使用して再生を行い、ポピーとコスモスを地区の子どもたちと一緒に植えている。

【地区概要】

- ・取組面積 47ha(田45ha、畑2ha)
- ・資源量 水路 2.1km、農道 10km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、育成会、消防団、自治会
- ・交付金 約220万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 長年、生産調整のために自己保全管理の休耕地としてきたが、現耕作者が高齢となり、十分な管理が出来ずに荒廃が進行した。



取組内容

- 地域住民による共同活動で遊休農地を解消。毎年恒例となりつつあるポピー及びコスモスの種播きを地区の子どもたちも含めて行っている。



- 6月にはポピー、11月はコスモスが満開。同じ圃場で、年に2つの景観を楽しんでいる。



取組の効果及び活動展開



- 遊休農地の解消と再発防止が図られるとともに、子どもたちが参加する「コスモス播種」や「コスモス祭り」を通じて、良好な景観が形成され、地域への愛着が深まった。
- コスモスが満開となった遊休農地は、地区住民の「癒しの場」となっている。
- 今後とも地域の活性化が図られるよう、活動を継続したい。

さがいほんごう  
寒井本郷環境保全組合（大田原市）

中山間農業地域

○本地域は那珂川流域の西側に位置し、那珂川からの安定的な農業用水の供給により米を中心とした土地利用型農業が盛んな地域である。

○平成19年度から農地水の事業に取り組んでいる。

## 【地区概要】

- ・取組面積 118ha  
(田115ha、畑3ha)
- ・資源量 水路13.0km、農道6.4km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、営農組合  
自治会、育成会、他
- ・交付金 約 560万円(H30)

## 活動開始前の状況や課題

○高齢化の進行や後継者不足により、遊休農地が増加し、地域の農業用施設についても老朽化により補修が必要な状況であった。

## 取組内容

○遊休農地を活用し、ソバの播種、管理、刈取り、脱穀調製、収穫を地域の子どもたちと実施。収穫されたソバを原料として、子どもたちに蕎麦打ち体験をさせている。また、地域の方全員を対象にソバの試食会を開催。開催場所には、多面的機能支払事業の活動内容について掲示板を作成し、地域住民へ広報・啓発活動を行っている。

○地域内農道をフラワーロードとした農村景観で、彼岸花等の植栽、草刈り、草むしりを行う。また、景観の維持のために、清掃、ゴミ拾いを実施している。



ソバの播種



ソバの刈取り



ソバ打ち体験



ソバの試食会

## 取組の効果及び活動展開

○農家と非農家が一体となった保全活動により、地域の用水路付近はホタルの生息地となっており、年々生息数の増加が確認されるなど、豊かな農村環境が保全されている。

○ソバによる地域ぐるみの活動を通して、事業の理解と活動参加への協力が盛んになり、地域の活性化につながっている。また、子どもたちと交流し、対話できる貴重な機会となっている。

○新たな担い手の育成・確保に努めるとともに、事業に参加させることにより、資源の適切な保全を継続していきたい。

ミヤコタナゴの里環境保全会（大田原市）

平地農業地域

【地区概要】

- ・取組面積94ha  
（田93ha、畑1ha）
- ・資源量 開水路25.5km  
農道10.7km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、自治会  
育成会、女性会、育成会、  
ミヤコタナゴ保存会、他
- ・交付金 約450万円(H30)

- 国の天然記念物で希少動植物に指定されている「ミヤコタナゴ」及び大田原市の天然記念物で「とちぎ名木百選」に選ばれている「アカガシ」が地域のシンボル。
- 地域の連帯感を深めるため、休耕田を活用したコスモス祭りやホタル観察会などのイベントを開催。また、子どもたちと一緒に通学路の路肩に彼岸花を植栽。

活動開始前の状況や課題

- 本事業を通じて地域の連帯感を更に深め、改めて郷土を見直し、農村環境を守り続けることで「ふるさと」を次世代に残そうという強い思いで取組を開始。



【地域資源の保全を図る共同活動】

取組内容

- 休耕田を活用して毎年10月にコスモス祭りを開催し、新米(ゆうだい21)の無料配布、高齢者や小学生以下を対象とした宝探し、女性会の手作り食品の販売などのイベントを実施。

- 多くの子どもたちが参加し、毎年6月にはホタル観察会及び通学路への彼岸花植栽、2月には鮭の稚魚放流会を実施。



【コスモス祭り】



【通学路への彼岸花植栽】

取組の効果及び活動展開

- コスモス祭りの開催や農産物の配布、手作り食品の販売を行うことで、地域住民の交流が図られるとともに、地域外の人たちにPRができ地域の活性化に繋がっている。

- 子ども、高齢者、女性が参加する地域活動が新たに始まり、地域コミュニティの維持・発展が図られている。



【来場者で賑わう受付】



【散策する来場者】



【鮭の稚魚放流会】

さんくちょう

三区町環境保全隊（那須塩原市）

都市的地域

【地区概要】

- ・取組面積159ha  
(田149ha、畑10ha)
- ・資源量 水路 18.3km  
農道 30.0km
- ・主な構成員  
農業者・農協女性会・老人会・  
子ども会・NPO法人等
- ・交付金 約 740万円(H30)

- 当保全隊は、那須野ヶ原開拓の歴史的施設を拠点とし、地域一体となった環境学習・環境保全活動を実施。
- この取組により、活動全体に対する参加者が増加し、非農業者の参加率も増加した。
- 新興住宅の急激な増加により一度希薄化した「人と人とのつながり」の大切さを再確認し、農業者と非農業者が手を取り合った地域コミュニティを形成。

取組内容

- 様々な世代の参加によるマリーゴールド等の植栽活動を実施。
- 親子を対象とした「生きもの調査」や、「農業体験学習」の取組を実施。
- HPやパンフレット、活動実績をまとめた冊子等の制作により、積極的に情報発信している。

活動開始前の状況や課題

- 新興住宅の急激な増加により混住化が進み、約90%が非農業者となった。  
その結果、人と人とのつながりが希薄となり、地域コミュニティの低下が深刻な問題となった。
- 農業用施設や、那須疏水開削に係る歴史的財産等の保全管理も困難な状況にあった。



【純農村地帯の三区町】



【生きもの調査】



【農業体験学習】

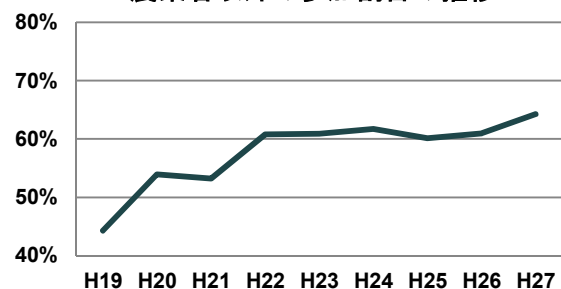


【活動実績「10年のあゆみ」】

取組の効果及び活動展開

- 各種イベントの実施により、農業者・非農業者の交流が盛んになるとともに、農業施設周辺への植栽など地域一体となった保全活動が盛んになった。
- 住民間の交流が活発になり、「三区女性の集い」や「ゴミゼロパトロール隊」など、女性や非農業者が活躍する組織が発足し、非農業者と農業者とを交えた地域保全活動や意見交換が、活発に行われるようになった。

年間延参加者数における農業者以外の参加割合の推移





いなざわ  
稲沢農地水環境保全組合（那須町）

中間農業地域

○田園が広がる純農村地帯で、淡水魚をはじめ多種多様な生きものが生息している。平成19年から活動を開始し、農用地の適正管理や農業用施設、水辺環境の保全活動を推進し、大切な資源を次世代へ継承していくことを目標として活動している。

【地区概要】

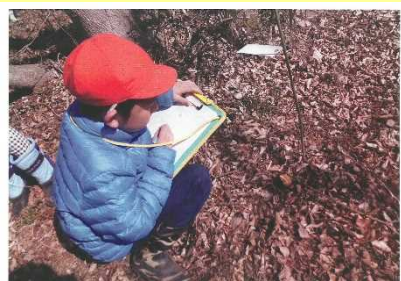
- ・取組面積 112ha  
(田104ha、畑8ha)
- ・資源量 水路15.4km、農道9.1km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、育成会、他
- ・交付金 約 520万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 農業者組織、自治会が高齢化し、若者の農業離れが進行。
- 農地の区画が小さく、担い手が耕作するにあたり負担となっている。

取組内容

- 希少種の監視としてザゼンソウの保護をしており、自然観察の授業の一環として、小学校3年生を対象として鑑賞会を実施。
- 構成員が遊休農地を活用して育てた巨大かぼちゃの大きさを競うかぼちゃ祭りを開催。敬老会の会場や道の駅等に展示し、多面的機能支払の広報にも役立てている。
- 農地周りの立木の伐採や枝おろし等、光線不足による、稲の倒伏防止活動をしている。



ザゼンソウ鑑賞会



景観形成(植栽)



かぼちゃ祭り

取組の効果及び活動展開

- 学校や地域全体を巻き込んだ活動を実施し、子どもの頃から地域の自然と農業に触れる機会が提供されていることで、地域の交流が図られ、連帯感が強くなっている。
- 構成員の負担軽減のために後継者を育成する活動を強化していく。
- 田植え体験や稲刈り体験を通して、若者に向けて農業の楽しさを積極的に発信していきたい。

## たぬき<sup>さと</sup>の郷を守り隊（那須町）

中間農業地域

### 【地区概要】

- ・取組面積48ha(田48ha)
- ・資源量 開水路6.9km  
農道4.8km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、自治会  
育成会、土地改良区、他
- ・交付金 約230万円(H30)

- 県内有数の観光地という地域的優位性を活かし、農家と消費者を結びつける交流の場を創出し、地域活動に係る情報発信や地元農産物のPR・販路拡大に取り組む。
- 平成19年度から活動を開始し、平成21年度より地域内の転作田を活用したひまわり祭りを開催し、地域住民の交流はもちろん、観光客の人たちとの交流が活発化。

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は水源が少なく、水不足傾向にあり営農に苦慮。
- 営農者の生産意欲が低下し、遊休農地の増加が深刻化。



【遊休農地の状況】

### 取組内容

- 平成21年度から、「元気アップ！ひまわり祭り」を開催。
- 休耕田を活用した景観作物の栽培やひまわりの花の摘み取りなどのイベントを実施。
- 地域全体での環境保全型農業へも取り組む。



【ひまわり間引き作業】



【ひまわり祭り】

### 取組の効果及び活動展開

- ひまわり祭りを開催することで、独自の取組を観光客や地域外の人たちにPRができるとともに地域の活性化に寄与している。
- 地域で減農薬減化学肥料栽培に積極的取り組み、生産された米を「たぬっこ米」として独自ブランド化を図るなど、安全安心な農作物を提供している。



【景観形成活動】



【ひまわり祭り】



【農産物のブランド化】

しもまぎ

下牧農地環境保全会（佐野市）

中間農業地域

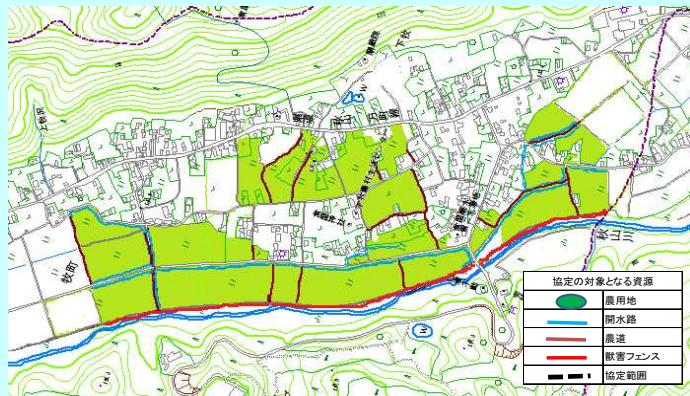
- 当地区は、佐野市北部の中山間地域に位置しており、地域の担い手である下牧グリーンファームが平成25年に組織され、保全会は平成26年度から交付金の取組を開始した。
- 活動参加者は農業者であり、機械除草と水路の泥上げ等により水路・畦畔の維持管理に努めている。
- 農業施設管理を保全会が行うことで、担い手の農地集積に寄与している。

【地区概要】

- ・取組面積26ha(田20ha,畑6ha)
- ・資源量 水路3.0km、農道2.5km
- ・主な構成員 農業者  
※下牧グリーンファーム役員含む
- ・交付金 約70万円(H30)

活動開始前の状況や課題

- 中山間地域に位置し、小区画で田畑が混在しており、遊休農地が増加し、作付けが困難となっていた。
- 農業者の高齢化、後継者不足から農地の保全管理が不安な状況になっていた。
- イノシシによる農産物被害も深刻化していた。



【下牧農地環境保全会 区域図】

取組内容

- 地区全体の集落営農戦略ビジョンを作成し、「農地は地域みんなで守っていこう!!」をスローガンに、農事組合法人を立ち上げ、農地の面的集積を進めている。
- 定例役員会の際に、農地貸出の意向者等情報の収集に努めている。
- 農地や水路法面の草刈りなど地域資源の保全管理や、イノシシ・シカを防止するワイヤーメッシュ柵の設置及び維持管理を実施。



取組の効果及び活動展開

- 現在では25ha程の農地集積が図れており、農地集積の推進により、農地利用の効率的、効果的な活用が図れ、経営的にも大型機械の導入により、農作業の省力化、低コスト化が図れている。
- 獣害対策としての防護柵の設置はかなりの効果があり、農作物の被害が減少し、庭先まで侵入してきたイノシシやシカもほとんどいなくなり、人間に対する人的被害も防いでいる。
- 今後も、耕作放棄地を発生させないように努めていきたい。